

Activation of Metacognition by “Reflection” through Bulletin Boards

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中尾, 桂子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6984

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



掲示板を利用した「振り返り」による メタ認知の活性化

中尾 桂子

概要

自律学習を念頭に、自身の学びを客観視する目的で、授業を通した各自の学びを振り返り、その振り返りの内容を自分のために、授業後、課題完成後に、掲示板に記述するよう促した。この書き込みは、成績には関係ないものとしていたが、コース終了時まで自主的に書き込みを継続する学生も若干おり、また、書き込まれるメタ認知的知識が変化の様子が見られた。また、記述数と成績、さらに、記述されるメタ認知的知識と成績の相関係数を計上したところ、自身のメタ認知的知識のうち「学習方略」に言及する記述を多く書く学生には、記述数と成績に中程度ではあるが、他の認知的知識よりは高く相関が見られた。以上から、振り返りを自律的に継続することが、自らの学びを客観視することにつながっていく基盤づくりに影響する可能性が考えられた。クラスメイトや教員の目を意識して、しかし、自らのために学習を客観視するという掲示板の書き込みが、自らの学びをメタ認知的に把握することにつながるとすれば、掲示板での振り返りは、自主性、客観視、見守りを意識させる環境を学生に与え、メタ認知の活性化に影響すると考えられる。これは、溝上(2018)の指摘する他者の目線を意識した内省と、ことばによる内省の外化の重要性が再確認されたものと考えられる。

【キーワード】 振り返り、掲示板、メタ認知的知識、積み上げ学習、自律性

1. 教育改善の目的・目標

1.1. 問題の所在と改善の方向・目標

近年の社会の急激な変化に対応していくには、学ぶ力そのもの、すなわち、自律的な学習の力を養う必要がある。しかし、学習に際して自ら考えようとする主体的な姿勢が十分養われないままに大学に進学してきた学生の場合、個人の学びの意味を意識することなく、また大学の学びの中での適応力が充足されず、全てにどこか投げやりになってしまうことが多い。無気力な学習態度のままでは、たとえば、語彙の継続的な積み上げ学習や、アカデミック・ライティングの決まりを遵守することなど、特に、機械的に、基礎的な内容を少しずつ積み上げていくタイプの学習がなおざりになりがちで、学習内容を理解して課題を十分に完遂させることにも知識を積み上げることにもつながらない。積み上げ学習が継続できないのは、自身が先に行った学習と、そのうえに積み上げる、次の学習との関係や、積み上げた後の全体像が俯瞰できないこと、さらに、それら学習要素に対する自身の関与の程度が正しく認識できないことに起因すると考えられるが、在学中にメタ認知的能力を養っておかないと、自律的に学ぶための基礎力が十分に養われないまま社会に出ることになってしまう恐れがある。

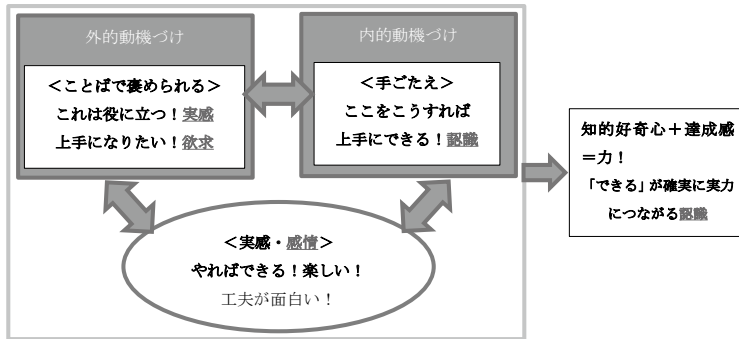


図1 意欲と動機付けの筆者解釈（「欲求」, 「感情」, 「認知」: 鹿毛 (2013) より）

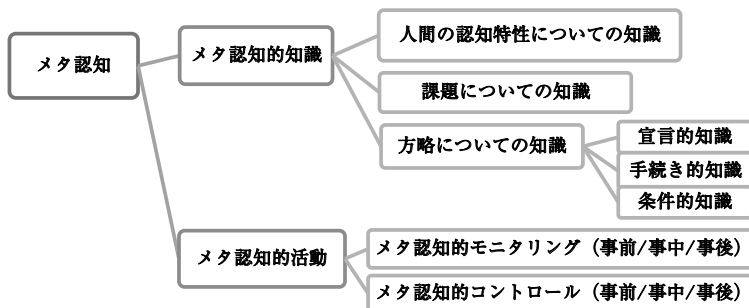


図2 メタ認知の構造 (三宮 2018 : p23 図 1-3 より筆者作図)

受動的な学習者を、自主的に学習が進められる自律的な学習者に育てるためには、学習者オートノミーが影響すると考えられるが、その活性化には学習者自身の学習に対するメタ的な認識を持つことが必須要件となる (青木 2005, 青木・中田 2011, 中田 2015)。そのため、まず、図1に示すような意欲を活性化させる動機付けに気を配った学習計画が必要だと考えられる。それには、鹿毛 (2013) の指摘するような、欲求、感情、認知を関係づける動機付けの「しかけ」が重要になる。鹿毛 (2013) によれば、学習の意欲という心理的向上には、「認知」「情動」「欲求」として説明できる動機付けが重要で、「しかけ」としての教育環境は動機づけデザインという考え方によって整理することができるという。動機付けは、図1のような外的動機づけと内的動機付けと実感とが対応しながら「欲求」、「感情」、「認知」とが循環するような形で、しかし、成績や罰での褒美はアンダーマイニング効果による弊害が考えられるため、ある程度、自分自身でも納得できる状態で言語的報酬 (ほめられる) を得る経験を増やすような授業や活動の計画の下、動機付ける方略を考えたい。

鹿毛 (2013) を参考にすると、主体的で自律的な学習を促進する必須条件として、学習に臨む自身を客観視すること、知識を積み上げてより大きな知識を得るために学習しているという意識を自らの中に形成するトレーニングを行うこと、学習に臨む姿勢をメタ的な視点で見るというマクロな視点の養成を支援することが必要になると考えられる。しかし、それには、受動的な学生の学習プロセスを観察しながら、メタ認知的要素に影響する教員の振り返りの指示の方法と振り返りのフィールドの影響を考え、このメタ認知的要素の出現条件を特定する必要がある。十分な考察が必要ではあるが、このような環境が整えば、メタ認知活性化モデルの実践的検証や自律化支援の検討

に応用し得ると期待できる。

なお、メタ認知（またはメタ認識ともいう）とは、ここでは三宮（2018）に倣い、「自分や他者の認知活動を意識化し、一段上から捉えること」とする（三宮，2018）。三宮（2018）はFlavell（1987）の「メタ認知的知識の3分類」を整理して、メタ認知を図2のように下位分類している。そして、モニタリングとメタ認知的知識を踏まえた意識化が効果的だとしている。また、認知と認識は訳語の違いとして同一のものとしている。ここでも、認知、認識を同義の語とする。

1.2. 実践方法

学習を、ただやり過ごすものと捉え、機械的な積み上げ学習の流れに乗れず、与えられたものを受動的に実施することもままならない学習者には、学習の力、すなわち、自ら学び、自らの学習に対する自分なりの考えや独自の方法を工夫するといった主体的な学習の推進力を鍛えたい。そのような力は学校教育の中で学びを超えて、社会に出てからも役立つ力になることが期待できる。

主体的に学習を進めるためには、教室の内外で学習やそのストラテジーを意識するトレーニングと、学習者自身の学習に対するメタ的な認識が活性化される状況を設けることが効果的だと考えられる。齋藤（1996）は、外国語学習を指導する立場から、指導上の注意点を次のように述べている。

学習者の教師への強い依存度を考えるならば、教師が性急に、そして一方的に学習者に自律的学習を求めてはならず、学習者が教師に頼らなくても自分に合う学習方法で自分で学習できると実感できるように、繰り返し自律的学習場面を提供して自信をつけさせていくことが求められる

そのうえで、Dickinson（1987）を参照し、たとえば、心理面と方法論の両面からの支援で、自律的学習が単なる理想から現実的なものになっていくと示唆している。具体的には、次のように述べている。

教室活動にプロジェクト・ワークなどの自律的に行う学習活動を導入して、その活動に必要な学習ストラテジーをトレーニングし、学習者自身が決定する事項を徐々に増やししながら、学習の目的、方法、素材、評価という学習のすべてについて自己管理する学習を繰り返し経験することを通して、自律的学習を行うことに自信がつく

また、原田他（2019）の実践では、アカデミック・ライティングを指導する立場から、ピア・レスポンスと内省を記述する活動を授業に取り入れ、実施後のインタビューをM-GTAを用いて分析し、学修のプロセスを可視化した。その結果、内省の記述が自らの学びに対するメタ認知の活性化や自主的な行動に影響すると指摘している。

原田他（2019）で効果が確認された授業後の「振り返り」の記述は、学習に対する内省とその客観視という効果が期待できる。また、この内省と客観視を自主的に繰り返すことで、齋藤（1966）の提案する自律学習のトレーニングとしての、自身の課題や解決方法に向き合う姿勢を養い得ると期待できる。

ただし、学習管理能力として自身の学びを俯瞰する力が十分に備わっていない学生には、授業の様々な面を有機的につなぐ形で授業スケジュールや、内容、目標、課題等の管理の仕組み支援が望ましい。ただ、中尾（2016）は、学習管理に、交換日記形式のノートとクリアファイルを用いて

ポートフォリオを物理的に形に残し、授業のベースにしようとしたが、学生にはその管理が煩雑で、十分なベースとして活用しきれなかった。その経験を踏まえ、本実践では、授業のプラットフォームとしてLMSを利用し、学習の管理方法を示唆的に支援することで、学生各自の学習プロセスや行動を振り返るためのポートフォリオを個人のより身近なものとしたい。LMSにクラスのプラットフォームを設けることで毎時間の達成目標、授業活動、課題、内省用の評価用ルーブリックといった授業コンテンツが常に見渡せる環境が整えられる。また、24時間体制のポートフォリオが整えられることになり、個人の学習のペースに合わせて、より学習内容に集中しやすくなると考えられる。さらに、LMSに備わる機能を用いて一斉連絡をメール等へ転送するといったリマインドやスケジュール管理、掲示板等での疑問や考えの表明がより簡単に行えることにより、教室の枠と個人の生活を結びつけやすくなることが期待される。

このように考え、受動的な学習者を自律的な学習者に育てるために、その前提となる学習に臨む姿勢と動機を自らの中に形成するトレーニング方法として、他者の目を意識した振り返りの可能性を検討する。その目的は、学習行動への学生自身の意識を高めるか確かめることである。

本稿では、他者を意識する中での振り返りとして、LMS: manabaに備わる掲示板という公開を前提とした形での振り返りを導入した実践を報告する。掲示板の記述内容の傾向、記述と学習成果との関係、学期末アンケートに見られたメタ認知的知識と考えられる記述を観察して、掲示板での振り返りが自律性向上のトレーニングとなり得る可能性について考察するものである。

2. 授業概要と教育改善の内容

2.1. 授業概要

学習者自身の学習に関するメタ認知が活性化される条件を探るため、授業の振り返りをもとに、学生の意識と行動を調べるのであるが、今回は、アカデミック・ライティングのクラスでの学生の振り返り、提出課題、学生の行動とを合わせて見た結果に基づき、メタ認知との関連性を報告する。

本稿の分析対象である実践の科目名は「日本語の文章表現B」というが、これは、短期大学部国文科1年次配当の専門必須科目（前期2単位、後期2単位）として当学科ディプロマポリシー4点と特に関係が深い科目である。そして、2年次に修める卒業論文の基本的な書式上の知識を確かなものとし、文献調査の技術、情報処理上の技術を高めるトレーニングを行う演習科目相当として設定されている。半期科目として設置しているが、前期と後期のそれぞれに「日本語の文章表現A」、「日本語の文章表現B」として1科目ずつ2科目それぞれの履修が必修となっているため、この授業は、通年科目の様相を呈している。本科目は、例年、前期に位相差と読み手を意識して文章を書く練習を行い、後期に論文・レポートの書き方を学ぶ。

本稿で報告するのは2019年度後期の実践である。2019年度は「日本語の文章表現B」として同期の同じ曜日（金曜日）に2クラスに分けて開講された。金曜2限が32名（うち3名が再履修者）、金曜4限が29名（うち1名が再履修者）であったが、両クラスとも、休学者、授業放棄者を除くと、単位取得者数は、それぞれ、金曜2限が28名（休学・授業放棄6名）、金曜4限が26名（休学・放棄なし）となる。担当者はどちらも筆者である。なお、授業は15回開講されたが、うち2回が学科行事（卒論説明会、学習環境調査・適応調査）に振り替えられたため、授業は実質13回となり、最終回をまとめの時間としたことで、掲示板への振り返りは第2回目から11回目までの10回分である。本稿で報告する分析対象は、金曜2限時クラス（28名）の振り返り10回分（第2回目～第11回目）である。

毎時間の授業は次の①～⑤の流れで実施した。③の推敲の際には、ピア・レビューによる協働活動を実施する場合があったが、課題の内容によっては、評価観点を明記したチェック様式のルーブリック等を用いた個人作業として行った。なお、個人作業の場合には、希望に応じて、机間巡視の際に教員との簡単な個別対談も行った。

- ① 【授業中】 学習目標とその実行方法，評価方法を全体で確認
- ② 【授業中】 課題を各自で実施
- ③ 【授業中】 推敲（協働，個別面談等の対外的，内的，個別的な活動を含む）
- ④ 【授業中・授業外】 各自見直し後に完成させて個人で提出
- ⑤ 【授業外】 掲示板にて振り返り

本授業は「意見と事実の書き分け」，「因果関係」，「段落の書き方」等，学習項目が積み上げ式になるため，事前学習は前回の課題を実施していることとし，事後学習は当該回のテーマの練習結果である課題の完成とした。1回分の授業に学生が対応する時間は授業回の前後1週間ずつを基本とした。2019年度後期の評価は，平常点，ならびに，学期末の自由課題のレポートの提出とその完成度で判断した。平常点は，学期中に提出されるブックレポート，指定課題レポートを含む授業毎の課題の提出と，出席点で構成される。

2.2. 掲示板の利用方法

この授業は，2008年度より担当しているが，学科の専門科目の基盤的科目に位置付けられているため，学科のディプロマポリシー：DPの1つであるコミュニケーション能力の向上も見越して，2010年ごろから協働学習での授業実践方法を検討してきた。毎年，前年度の学生の様子や課題達成状況，授業アンケートに基づいて，次年度の改善を行ってきたが，今回，自主的な活動のきっかけや環境となり得るものとして，教師の指示，クラスメイトの視線をより積極的に意識させる仕掛けを設けるために，次のように授業での約束事を設けた。

- ・上記2.1.で示した①～⑤の授業の流れのうち，④課題完成と⑤掲示板での振り返りは，授業時間内に実施する必要はなく，翌週の授業開始前までに提出すればよい
- ・提出課題の採点は3点満点で行い，主に，提出行為への加点とする（ただし，やり直す場合はその都度1点加点される）
- ・④の提出課題と⑤の掲示板への書き込みはクラスメンバーに公開される（第1回目の授業ガイダンスで了承）

また，2.1.で示した①～⑤の授業の流れのうち，⑤の掲示板への振り返りの目的とその方法については，次のような注意を与えた。すなわち，掲示板は「自分の理解と知識を言語化して記憶にとどめるために」任意で利用する，ならびに，掲示板利用は次の5点に注意するということである。

- (1) 授業の課題を完成させてから書き込む
- (2) 教員からの問いかけをきっかけに自分自身や課題について考えた結果を書く
- (3) 掲示板のタイトルは，最もよく考えたことや気になったことを1言に要約して書く
- (4) 掲示板は自分のその日の学びの覚書として，また，宣言として自分のために書く

(5) 掲示板は評価対象とはしない

以上のもと、約束事として、掲示板への振り返りが任意であることを、自分の理解をことばにすることで記憶に残るから掲示板に意識して書くことが重要であるという説明と併せて、学期開始時から、課題提示の際や、毎時間の終了時などに、折に触れて伝えた。特に、授業での評価の中心が、「考えること」と「考えた結果を実行」したかどうかである点を、繰り返し、強調した。掲示板のスレッド例とそこへの記述の例を図3にあげる。

なお、振り返りや焦点の当て方はそれぞれの学生の理解度に応じて様々ではあるが、各人なりに自分の課題だと思う点を取り上げている。様子が確認できるように、巻末に、後半の第11回と第10回目のスレッドのやり取りを例示する。巻末資料の二重線枠以外のそれぞれの枠内の1行目は件名で、学生が最も気にした事柄を学生自身が記入したものである。

本日は、構想を立てる作業をしてみました。構想の意味が理解できたと思いますか。理解できた人はなぜ理解できたと思うか、理解できない人はなぜ理解できないと思うかについて考えをあげてください。

図3 10回目の掲示板スレッドの問い

・レポートを書く前に、構想を表や文章にして立てることで、頭の中や自分の意見が整理されてよりレポートが書きやすくなった気がしました。なので内容のつまったレポートをつくるには、構想を立てることが重要。
・テーマはすぐに決めることが出来たが、そこから内容を考えるのに時間がかかった。何を書いているのかわかりにくいレポートとならないように、ただやみくもに書くのではなく、しっかりと構想を立てることが大切だ。

図4 第10回目の掲示板への学生の書き込みの例

・ 学生 A：件名「因果関係」
課題についての認識
解決方略について認識 に該当する記述
文章のなかから必要なものを見つけ、文字数制限があるなかでどのようにまとめるか考えることが出来た。し 自分についての認識 たのか探すのに
解決方略について認識 に該当する記述
時間がかかったり、文字数を超えてしまった場合にどこを省けばいいのか迷
ってしまったりしたので、そこら辺を素早く出来るようになりたいと思った。

・ 学生 B：件名「因果関係」
認識（課題，人，方略）が薄い記述 に該当
因果関係の文章は、必要なことに重点を置きたい。

図5 記述の分類作業の例：認知的知識のタイプによる分類

掲示板を利用した「振り返り」によるメタ認知の活性化

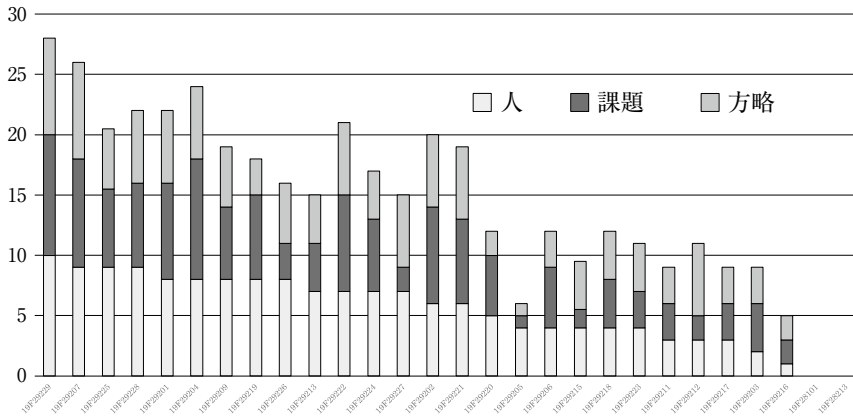


図6 書き込み総数とメタ認知的知識の関係 [金2限-28名]

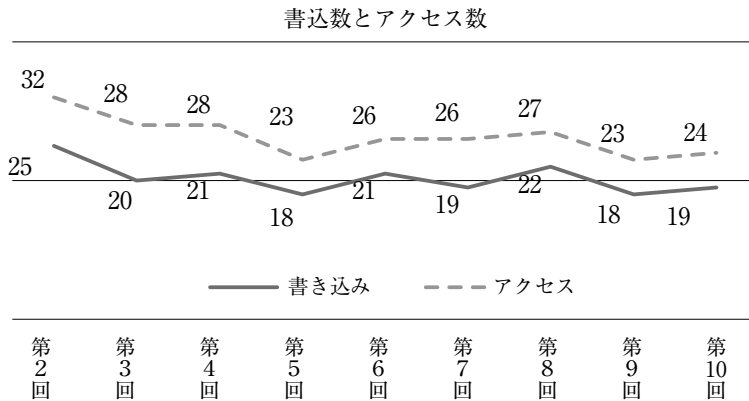


図7 書き込み数とアクセス数推移 (実数)

3. 教育実践による教育効果とその確認

3.1. 掲示板の書き込み状況から

金曜2限の授業の振り返りの書き込み数（総数，内訳）を個人別に表したのが図6である。学生によって文の長さは異なるが，同じ学生でも，回によって長さが異なることもあるため，ここでは書き込み数を全体平均で見ていくこととする。

この授業で書き込みを指示した全10回における平均書き込み数は6.6回である。単純に考えれば，1人当たり，2回に1回程度のペースで書き込んでいることになる。授業後に掲示板に振り返りを1度も書き込まなかった学生は単位取得者28名中2名で，全回，振り返りを書き込んだ学生は28名中3名である。

掲示板に書き込んだ振り返りの内容は、三宮（2018）のメタ認知的知識の3要素：「人間の認知特性」、「課題」、「課題解決方略」を参照して分類、計上した。すなわち、他者や自分自身の特性に関する知識などに言及する記述は「人間の認知特性」（図6凡例「人」）、課題の性質に関する知識を記述した場合は「課題」（図6凡例「課題」）、推敲の際の工夫に関する知識を記述したものは「課題解決方略」（図6凡例「方略」）である。図5にラベリングの例を追記しているが、それらを一覧整理したのが図8である。それぞれの平均記述数は、「人間の認知特性（図6-人）」が5.70回、「課題（図6-課題）」が5.00回、「課題解決方略（図6-方略）」が4.41回であった。

図7は、第2回目から第10回目までの各回の掲示板への書き込み件数と掲示板へのアクセス数の推移を示すグラフである。書き込み件数より、アクセス数の方が多いことから、記述しなくても、書き込みを見る学生がいると考えられる。

掲示板への書き込みとアクセス日時の記録を見ると、書き込み時点と最終アクセス時点が同じ学生も各回2、3名ずついたが、多くは、授業後に課題を完了して提出し、それから振り返りを掲示板にあげているようすが窺えた。さらに、課題提出日時と最終閲覧日時の差が見られる学生も多く、その中には、本人の書き込み後、1週間以上経ってからも掲示板を見直している学生がいることが確認された。自他の振り返りを見直すという行為は、レポートの書き方に関する知識や技術を積み上げ式で学んでいく後期授業実施方法の影響もあると思われるが、その回数多さを考えると各自の振り返りや他者の振り返りを折に触れて見ることで掲示板の振り返りの内容をよすがに、次の課題に応用しようとすることも推測される。これらの書き込みとアクセスの様子を見ると、掲示板が、知識や授業に対するメタ認知を活性化させるきっかけになっている可能性が考えられる。

なお、掲示板への書き込み数は、図7に見られるように、学期末に進むにしたがって徐々に減っていく。ただし、授業に欠席しても課題を自主的に行って振り返りを書く場合や、反対に、授業活動である協働学習に参加して討論後に課題を出していても、振り返りを書き込んでいない場合もあった。また、振り返りを1度に2回書き込む学生もいれば、しばらく書き込んでいなかったけれども、突然書き込む学生もいた。このことから、書き込むか書き込まないかは、課題を行っていることを示すアピールとして行うだけではなく、課題内容への興味や課題での学びが自身の中で明確に意識できたかどうかに影響を受ける場合が多いのではないかと考えられる。さらに、書き込み時期が授業終了直後か次回の授業直前かといった書き込みまでの時間的な長さも記述内容の深さとは関係

人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人
人	課題	方略	人	課題	方略	人	課題	方略	人

図8 認知特性3種のラベリング

がなく、課題の評価（Aであるか、Cであるかなど）と書き込み時期との関係もなかった。

図8は、認知特性3種に該当する記述を確認してラベリングした際のエクセル表の作業中の様子を示すものである。図8の表の1行目は教員からの振り返りの問いかけで、左側の1列目が学生コードを示しており、1行ごとに学生がどの回の書き込みを行い、その記述が、三宮の3種のうちのどれに該当するかを分類した結果となっている。空欄は掲示板への書き込みを行わなかった回を表している。この図8の表に基づいて振り返りの記述を見ていくと、振り返りの記述には、「人間の認知特性（図6-人）」に関する記述（平均5.70回）に分類される、自身の課題の達成状況についての記述が多い。また、それに加えて達成状況の前回との比較、達成できるようになった項目についての記述と、それらに対する評価の内容を記述するものが多い。さらに、課題そのものの要点を記述する場合も多く、これはルーブリックや授業コンテンツに提示されている課題実施上の要点や実施要領を書いている様子として「課題（図6-課題）」の5.00回という数に表れていると考えられる。この課題の要点の記述は、自身の達成状況と合わせて書かれる場合が多いことから、課題を通して要点が理解できたことや理解できた要点そのものを書いているのではないかと推察される。

言及が比較的少ないのは「課題解決方略（図6-方略）」であったが、個人差があり、学生によっては初回の書き込み時から書いている人もいた。ただ、全体的に見ると、回が進むにつれて、より多くの学生が少しずつ言及するようになってくるものであるため、徐々に意識するようになる、より高次の認知的知識だと考えられる。また、この解決方略に関する言及が記述されるのにはある種のストーリー様のパターンがあった。印象深かった課題のポイントや自身の達成状況、その変化に言及したうえで、結論やまとめのように、ポイントとなる観点を今後のどのようなところに生かすか述べるという流れで書き込まれる場合が多く見られた。このことから、方略的な観点到言及し、方略の要点を見出すには、ある程度の経験に基づく考察が伴われる必要があるのではないかと推測される。

3.2. 掲示板への書き込み行動と成績の関係

掲示板の記述における認知的活動には、自分自身の課題の達成度に対する客観視や、課題のポイントに対する認識を改めるという経験、その積み重ねを経て、次回の自身の行動を想定した課題解決方略の言及に至るといった流れがうかがわれた。このことから、掲示板の書き込み数、特に、方略に関する書き込み数が多い場合には、より深い考察を行うことになり、その結果、学習成果の達成度が高くなるのではないかと予想される。

そこで、各学生の書き込み数（総数、内訳）と成績の相関関係を見た。図6では、授業を途中で放棄し、掲示板への振り返りを書き込まなかった学生を除外しているが、放棄・不合格者であっても、途中まで掲示板のコメントを記述している場合や、協働学習を経た課題を提出し、2/3以上の出席が見られた学生は可否判定に加えたことから、図6で割愛した「放棄・不合格者を含めた場合」、図6の対象者である「授業合格者のみの場合」、加えて、「学期末レポートの点数のみを見た場合」の3つの場合の相関係数をそれぞれ求めた。表1に示す。

表1では「方略」と「課題」は合格、不合格などの履修状況に関わらず、いずれのメタ認知的知識の場合にも中程度の相関が見られることから、これらの記述がなされているかが成績に関連がありそうに見える。課題の要領を確実に理解することと、現状を判断して技術的な要点や応用方法を見出すには、それなりの自身の記述や記述行動への分析的批評が必要になる。したがって、「方略」の平均記述数が少ないことを考え合わせれば、自身の掘り下げが行えるようになることが、やはり、「方略」としてメタ認知的行動として現れることを示すと考えられる。このことは学習の促

表1 書込み数（総数，内訳）と成績の関係（ピアソンの積率相関係数 r ）

	クラス	UP 総数-成績	人-成績	課題-成績	方略-成績
金2	成績評価点（不合格込）	.57	.55	.59	.63
	成績評価点（合格者のみ）	.44	.44	.52	.54
	レポート点のみ	.37	.39	.47	.41

進、学習行動の継続につながる手がかりだと考えられるのではないか。また、「課題」や「方略」に関する記述行動と成績に相関が見られるということは、振り返りの効果との関連性が窺えることを表すのではないか。

ただし、成績評価点と各メタ認知的知識への言及（記述）との相関を見ると、不合格者が含まれる方の相関係数が全体的に高く、合格者のみの場合は相関係数が低めである。これは、相関をとった成績評価点が、平常点（提出物と出席）と期末レポートの評価を合わせた総合評価点であることが関係すると考えられるが、成績評価点には、授業にまじめに取り組んだかどうかを表すきらいがあることから、記述数の多さと成績の高さとの相関に、その「まじめ」さが反映されたからだと考えられる。

しかしながら、自主的に自身の学びを、ある程度継続して振り返ること、さらに、その振り返りの記述に課題の要点や方略に関する記述が見られる場合、成果であるレポート等の成績点がより高くなることは認められる。これを、成績にその努力が反映され、さらに、振り返りの記述にもより深い考察を行ったことの影響の結果と考えると、掲示板を利用した振り返り活動により、自律的な学習に向けたトレーニングの成果として、学習に対する姿勢の善進が見られるとも言えるのではないか。もちろん、1度の学期の1つのクラスの様子から、早急に結論付けることは尚早であるうえに、教師からの問いかけが統制をとったものではなく、学生個人の能力の伸び率を考慮していないこともあり、厳密には何かを断定する段階にはない点には注意すべきである。

4. まとめ

授業終了後のアンケートには、「スレッドは（振り返りの）窓が小さい（ために十分書ききれない）」という意見があったものの、「振り返りが復習になった」「人のコメントを見て自分のことをより考えた」などの意見が多く見られることから、概ね、掲示板を用いた振り返りという行動をとることへの印象は悪くない。また、任意にも関わらず、全回書き込んだ学生も若干いることから、この指導は、授業活動や課題での認知的な活動を言語化すること、ならびに、その振り返りで見て取れる自身の学びの様子が客観視できる利点を感じたためではないかと考えられる。そして、同じ課題を共有するクラスメイトに見守られるという環境があるということも、認知的活動の活性化に影響を与え、成果にもつながる学びの機会が得られることを示す可能性が考えられる。

掲示板を用いた「振り返り」は内省をことばにするという行為であったが、これは、言い換えれば、学生が、課題を実際に行い、授業で与えられた知識を具体化させようと独自に努め、その過程で自分の文脈において理解したことを一度咀嚼し、そのうえで自分なりのことばにして誰かに見守られている状態で宣言するということである。これは溝上慎一がその学術的論稿サイトで挙げてい

る「内化・外化」（2018年3月24日掲載 2018年5月31日更新）の「外化」行為に相当すると考えられる。

外化：(externalization ≒アウトプット) 書く・話す・発表するなどの活動を通して、知識の理解や頭の中で思考したことなど（認知プロセス）を表現すること。可視化（見える化）とも呼ばれる。

溝上は「外化」をアクティブラーニングにおける能動的な学習のポイントとなるものとしているが、掲示板で自主的な振り返りを行うことは、その一つの方法になると言えるのではないか。掲示板を利用した「振り返り」によるメタ認知の活性化が、ある程度確認されるということから考えれば、他者の視線を意識させること、教員やクラスに見守られることが、能動的な学びの経験を知識として客観視すること、さらにその知識を、次の知的活動の学生独自の知識としていくことで自分なりの学習の文脈と言うものが形成されていく流れが予想される。したがって、他者と自分の学習の文脈を意識した振り返りは、自主的に学習が進められる自律的な学習者へと成長させるきっかけになるものと期待できるのではないか。

今回は、プリミティブな確認ではあったが、自律性のトレーニングには、見守りという観点、客観視の仕掛けとしての明確な授業目標と到達点の理解、理解と自身の到達度の比較が、有益な影響を与える可能性が確認されたと考える。自律性を支えるメタ認知活性化の条件として、見守り、客観視、自他比較による自己批評が影響する可能性が考えられたが、より詳細な分析でさらに検証を進める必要がある。今後の課題である。

付記

本研究は平成30～33年度科学研究費助成事業基盤(C)18K02847の助成を受けた研究の成果である。また、本稿は、私立大学情報教育協会2020年度ICT利用による教育改善研究発表会(2020.8.25)での口頭発表、ならびに、その予稿集を元に加筆修正したものである。

参考文献

- 青木直子(2005)「学習者オートミー」『新版日本語教育事典』773-774, 大修館書店
- 青木直子・中田賀之(編)(2011)『学習者オートノミー——日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房
- 鹿毛雅治(2013)『学習意欲の理論——動機づけの教育心理学』金子書房
- 齋藤ひろみ(1996)「語学習者と教師のビリーフス——自律的学習に関わるビリーフスの調査を通して——」言語文化と日本語教育12, 58-69
- 三宮真智子(2008)『メタ認知:学習力を支える高次認知機能』北大路書房
- 中尾 桂子(2016)「文章表現クラスでの教師間協働の実践と課題:2013年度の場合から」『大妻女子大学紀要. 文系』48, 186-175
- 中田賀之(編)(2015)『自分で学んでいける生徒を育てる——学習者オートノミーへの挑戦』ひつじ書房
- 原田三千代・浅津嘉之・田中信之・中尾桂子・福岡寿美子(2019)「アカデミック・ライティングにおける対話的評価活動の可能性」『小出記念日本語教育研究会論文集』No.27, 37-52
- 溝上慎一『溝上慎一教育論:用語集』「内化・外化」:[http://smizok.net/education/subpages/aglo_00011\(naika_gaika\).html](http://smizok.net/education/subpages/aglo_00011(naika_gaika).html) (2018年3月24日掲載 2018年5月31日更新)
- Dickinson, L.: Self-instruction in Language Learning, Cambridge University Press (1987)

資料1 日本語の文章表現B：第11回 振り返り

前回の全体構想に続けて、本論の意見と解釈という、主張を組み立てるうえで必要な根拠パーツの構想を、本日考えてみたわけですが、以下の3つについて考えを書いてみましょう。

- 1) 本論の意見と解釈セットを考えていく中で、計画を見直すことができましたか。
- 2) 自分の全体構想と本論の中の構想についてどのように思いましたか。
- 3) 構想という計画とレポートの関係についてどのように考えますか。

中尾 桂子 2019-12-06 12:07:19

意見と解釈を考える

意見と解釈を考えたことで自分が書きたい内容も具体的に定まってきたので、計画との矛盾がないか見直すことができた。全体構想は少し漠然としているが、本論の構想で内容を掘り下げていくのでよりレポートが書きやすくなるのではないかと思った。構想があってこそ良いレポートが書けるので、レポートを書くことも大切だが構想も重要な役割を担っていると実感した。

2019-12-14 13:25:37

意見と解釈

意見と解釈をセットに考えいくことによって、計画を見直すことができ、よりよい計画をたてることができた。全体構想でポイントになる論点を押えながら全体の流れを組み立てておくことにより、本論の中の構想が書きやすくなると思った。しっかりとした構想をたて目的や意図を完全に理解することにより、自分の主張が伝わりやすく、説得力のあるレポートが書けるとわかった。

2020-01-17 10:41:56

本論の意見と解釈

意見と解釈を考えていく中で説得力が低い点を見つけたため内容を一部変更した。全体構想を作ることで自分の主張の一貫性を損なうことがなくなると感じたため、突然レポートを書きはじめるのではなく最初に構想を作ることが必要だと感じた。

2020-01-24 01:40:17

本論の意見と解釈

前回の全体構想の再考で、本論の意見と解釈セットで計画を見直すことが出来ました。レポートを書く前には、自分の意見や、レポート全体の流れやまとめを明確にしておくという意味で、構想を立てることが重要だと思いました。そうすることで、レポートが書きやすくなるのを感じました。

2020-01-24 15:59:20

資料2 日本語の文章表現B：第10回 振り返り

本日は、構想を立てる作業をしてみました。構想の意味が理解できたと思いますか。理解できた人はなぜ理解できたと思うかについて、理解できない人はなぜ理解できないと思うかについて、考えをあげてください。
中尾 桂子 2019-11-29 11:53:30

構想を立てる

構想を立てるとき、何を主張するのか決めて、どんなことについて研究するのか考えてから、何の、どんなことを、と具体的にやりたいものを決めていくとやりやすいと思った。参考文献がたくさんあるので、どう吟味して決めたらいいかわからないです。

2019-11-29 12:14:32

構想について

構想がしっかりまとまっていないとレポートの作成に時間かかるということから、構想を立てる意味が理解できたと思う。

2019-11-29 12:16:40

構想の意味

構想を立てる際には、まず何を主張したいのかを定めることが重要だと思った。そこから観点などの中身を考えていく方が構想を立てやすいと感じた。

2019-11-29 12:16:57

構想を立てるとき

構想を立てるとき、ついつい初めから考えがちだったが、最後の主張を先に考えることでまとまりやすいと思った。

2019-11-29 12:18:10

構想を立てる

何をテーマにするか考えるときにテーマを先に考えることが多かったが、先に主張を決めることでよりテーマを具体的に考えることができ、スムーズにストーリーを考えることができた。また、資料も集めやすくなった。

2019-11-29 13:56:27

構想の重要性

自分が結局何を導き出したいのかを明確化させてから具体的な中身を考えていくという流れを学んだので、構想の意味がよく理解できた。具体的な研究計画に取り組むうえで構想はとても重要だと感じた。

2019-11-30 13:42:32

構想の意味

構想を立てるとき、結局何を主張したいのかを明らかにすることで、ストーリーがスムーズに書けるし、どのような資料を探せばいいかもすぐに分かったので、構想の意味がよく理解できた。

2019-12-02 09:55:11

構想を立てる

構想を立てるとき、何を主張したいのかを先に明らかにしていくことで、中身が考えやすく、意味がわかり、まとまりのある文章構造になることがわかった。

2019-12-03 09:00:00

理由立て

自分が何について意見を主張したいのが明確にわかる文章を作ることが大切だと思った。これから道筋を考えて以前考えた評価基準も考慮してレポート課題に取り組んでいきたいと思う。

2019-12-06 10:34:52

構想

文章を考えるうえで、自分の主張したいことを明確にすることが大切だと思った。そのための資料を探すこともまた大切だと思い、今回の授業で構想の意味が理解できたと思う。

2019-12-06 10:42:05

構想の重要性

自分の主張を事前に明らかにすることで、より内容の濃い構想を立てることができると気づいた。それにより、構想の意味が理解できたと思う。

2019-12-06 10:49:09

構想

自分の伝えたいことから構想を作っていくことが大切だと理解することができた。

2019-12-06 10:54:07

構想について

なかなか構想が立てられず、自分の主張したいことが明確に決まらなければ構想を立てることは難しいことが分かった。

自分の伝えたいことを明確にさせることが大切だと思った。

2019-12-06 17:55:33

構想を立てることの重要性

テーマは決まったものの内容の方向性は決まらなかったが、最初に自分が何を主張したいのかを明確にすることによりどの資料を使用するか等も決めやすくなった。もし内容でいきずまってしまうても構想を見直せば考えやすくなるのではないかと感じた。

2019-12-12 23:31:32

構想を理解する

- 1) 主張したいことと、書くべき内容のズレがいくつかあったので、改めてストーリーの見直しをしなければならぬと感じました。
- 2) 一つ一つの構想と全体の構想を比べるときに、全体の構想に不要な構想を本論の中に入れてしまうことがあったので、難しく思いました。
- 3) 初めからレポートに手を付けてしまうと、勢いで書いてしまい（特にパソコンで作るとき）、伝えたい内容をバラバラに書いてしまう時があります。なので、書きたいことをまとめる構想の整理という土台は、レポートを作成するために必要不可欠な存在だと理解できた。

2019-12-13 12:08:32

構想を立てる

まず、大まかな方向性を決め、そこから細かく決めていくのが大事であると思った。ある程度方向性を決めないと何が主張したいのかわからないし、細かく根拠を決めないと説得力のないものになってしまうことが分かった。

2019-12-20 10:36:00

構想を立てる

なかなかテーマが決まらず、なおかつ中身が浅かったため構想をたてるのが難しかった
人より遅れているので追いつきたい

2020-01-17 04:51:34

構想を立てる

テーマはすぐに決めることが出来たが、そこから内容を考えるのに時間がかかった。何を書いているのかわかりにくいレポートとならないように、ただやみくもに書くのではなく、しっかりと構想を立てることが大切だと理解出来た。

2020-01-17 09:59:23

構想

レポートを書く前に、構想を表や文章にして立てることで、頭の中や自分の意見が整理されてよりレポートが書きやすくなった気がしました。なので内容のつまったレポートをつくるには、構想を立てることが重要だと理解しました。

2020-01-24 15:45:41